

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2390800155		
法人名	社会福祉法人しあわせあつくん		
事業所名	あつくん家		
所在地	愛知県名古屋市長区瑞穂区大喜町4-27		
自己評価作成日	平成26年2月13日	評価結果市町村受理日	平成26年6月30日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・檜の風呂浴槽やトイレの手すり、3段階あるイスの高さなどこだわった施設環境。</li> <li>・小規模多機能と連携をとることによる大人数のレクリエーション。</li> </ul>
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2390800155-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2390800155-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>小規模多機能事業所と併設して運営されており、利用者の日常生活の中でも小規模多機能の利用者との交流が行われているが、少人数で過ごしたいという方については、グループホームのリビングで過ごし、職員も一人ひとりに合わせた支援を行っている。ホーム内は、木のぬくもりと良さを活かしながら、通路や居室の壁の色も自然の色を配置していることで、和風の落ち着いた雰囲気となっており、利用者は日中を穏やかに過ごすことができる。ホームでは、法人をあげて利用者の看取りを見据えた支援に取り組んでおり、法人全体で職員研修を行いながら、協力医とも連携を深めながら、利用者の看取り支援を行っている。また、地域の方との交流にも取り組んでおり、建物の1階部分を開放した交流スペースを通じたホームの行事の開催や、地域の老人会の方との合同の日帰り旅行を行っている</p>
--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市長区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成26年3月14日		

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての基本理念の理解をしていると共に、今後もっと地域密着サービスの充実を測るために職員全体実践力を養っていきたいと感じている。	一人ひとりを大切にした内容の法人理念をホームも基本理念としており、職員は研修の機会を通じながら振り返る機会をつくっている。また、共用空間等にも掲示したり、パンフレットにも記載し、基本姿勢を伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者が地域とのつながりを感じることができるよう(季節・天候など考慮してではあるが)積極的に外出またはボランティアのレクを受け入れるなど計画し実行している。	ホームは町内会に入り、清掃活動に参加したり、地域の祭事に参加する等、地域の方との交流に取り組んでいる。ホームで開催した交流会の際には、多くの方が訪問したり、老人会との合同の旅行会も実現している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	不特定多数に向けての貢献ではないが、施設に立ち寄った地域の方々へのお話や、説明などを行うこともあり、後々はそれが支援につながるまでのレベルまで上げていきたい思いがある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実際にご家族や町内会長などを交え意見を伺い、サービス向上に活かしている。	会議には多くの家族の出席が得られており、家族間の意見交換を行う機会にもなっており、ホームへの理解にもつながっている。また、地域の方が参加しており、会議を通じて、地域の行事等を知る機会にもなっている。	会議を年6回開催するように取り組んでいるが、様々な事情等から間隔が開いてしまうことがある。年間を通じて、定期的開催されることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町内会長とはご近所ということもあり、日頃のコミュニケーションをはじめ、度々施設にも足を運んで頂くなど協力関係を築く努力をしている。	運営上の不明点については、市の担当部署に確認したり、市の研修会等に参加し、情報交換の機会としている。地域包括支援センターとも連携しながら施設全体の責任者が会議等の講師を務めており、地域福祉の推進に協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベッドの柵から居室、玄関の施錠など、職員には身体拘束についての理解を深めてもらうために説明している。 法人で定期的に研修も行っている。	身体拘束を行わない方針を掲げており、利用者が施設内を移動できるように、併設事業所の職員とも連携しながら見守りを行っている。また、法人全体で研修会を開催しており、職員が利用者への対応を振り返る機会をつくっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は職員に対し、時として介助が虐待になってしまうような事が無いよう、介助に関して助言するようにしていると共に、常に施設内では虐待等万が一にも無いように注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今は実施できていないが、今後実施検討しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明をし、理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族と面会できた時にはその都度、なかなか面会できない時には電話などでご本人に関してや、運営のことについてなど定期的にお話しするような場を設ける努力をしている。	家族が集まる機会を年間を通じて複数回つくっており、運営推進会議の機会と合わせて交流の機会をつくっている。ホームからは家族に向けた独自アンケートを行いながら意見等の把握に取り組んでいる。また、ホーム便りを毎月発行している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングでは運営に関しての疑問や相談を話し合う機会も設け、改善に取り組んでいる。	職員を少人数でグループ分けをして、職員からの意見等を日常的に吸収しながら、より良い運営につなげる取り組みを行っている。そのうえで、月1回の会議を開催して全体への話し合いを行っている。また、個別面談の機会もつくっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況に応じて向上心を持ってもらえるような言動、行動をするよう心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な法人内外の研修実施、並びに、個々の技量に合わせ無理なく担当業務を与える努力をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	公共の場、又はプライベート等で同業者との関係づくりを実行している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人の安心を優先的に考え、その都度各利用者に不安要望に耳を傾け、なるべく腰を据えて話をする時間・関係づくりに努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族への連絡、またはご家族との相談はなるべく多く設けるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時思っている事を職員全体で把握し実行にうつせるように職員間の申し送りは徹底。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員主体で考えずあくまで利用者本人主体で考え、双方よりよい関係づくりを目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との時間、外出、コミュニケーションは積極的に支援し、介入も最小限にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	支援に努めていると共に、今後ももし新たに分かったものがあれば迅速に対応したいと思っている。	ホームでは、馴染みの方との関係を維持できるように取り組んでおり、友人、知人との交流や、家族との喫茶や買い物等で外出等が実現している。また、墓参りや月命日で外出したり、自宅に戻り、家族と過ごしている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の関係性、相性をしっかり理解し職員全体で把握しているので、上手に関わっていけるような環境づくりを目指すことができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人、又はご家族とのつながりは断たないようにしている。機会があれば訪問や面会なども行うようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	過去から現在、本人の意向、趣味などをよく把握、検討してプランを立て、定期的な職員全体での改善提案の場をミーティングにて設けている。	利用者からの言葉や思い等を把握して、職員間で共有できるように、職員をグループ分けしていることで、日常的に共有しやすい取り組みを行っている。全体でもカンファレンスを行うことで、職員全体で共有できるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らしに対しては、まだ把握している職員は少なく、今後理解を深めていってもらえるようにしようと思っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その時の状態、その後の経過、本人の言動・行動などをその都度書類に残して職員全体が把握、分かりやすく書類にふせんを付ける等して工夫している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族会や事業者単体のミーティングなど通して定期的に課題発見及び介護計画改善の努力をしている。	介護計画の内容を日常生活の場面に分けて、職員が一人ひとりに合わせた支援につながるように様式を工夫を行っている。日常的に利用者の状態を把握しながら、3か月までにモニタリングを行いながら、基本3か月で計画内容の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録にその日の様子、なるべく書き込めるよう日頃職員への指導、助言、努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各職員、柔軟に考え行動してもらえよう、その都度的確な指示が出せるよう努力している。新たなニーズに応える為の行動、改善に関してはミーティング問わずその都度話し合い検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で利用できる資源を把握し、利用できるものは積極的に利用する。緊急時に備えて備蓄も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の意思を尊重し、支援している。定期的な往診を行い、健康管理をしている。	ホームには、協力医が関連ホームと合わせて毎週訪問する機会が得られていることで、柔軟な支援が受けられる関係である。また、受診に関しても必要に応じたホームでの対応を行っており、皮膚科、歯科の往診も受けることが可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者や環境に対して気づいた事は必ず管理者、看護職、または提携医などと連絡、相談をし、判断を仰ぐ、又は決定していくようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携医などと定期的な情報交換と相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族、又は施設法人関係者を交え、十分に話し合いの場を持ち決定する事している。	協力医の理解と協力のもと、看取り支援を行っており、開設時より、看取り支援を行った実績がある。家族とは、段階に応じた話し合いを行っており、意向に合わせた支援に努めている。また、法人全体で研修会を行い、職員へのフォローも行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡・対策等のマニュアルに目を通してもらい、常に読める所に保管している。AEDの講習会なども行い職員実践力を深める努力をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施、警報装置やスプリンクラーなどの場所把握を行うと共に地域の避難場所や消火器の場所などを共有する体制を築いている。	年2回の避難訓練を併設事業所の職員との合同で取り組んでおり、訓練の際には、リーダーを交代しながら、職員全体で取り組めるようにしている。また、地域の避難場所にもなっていることもあり、ホーム内の備蓄品の確保にも取り組んでいる。	今後に向けて、施設全体として地域の避難場所にもなっていることもあるため、地域の方にも避難訓練に参加してもらい取り組みに期待したい。また、職員が少なくなる夜間を想定した訓練の実施にも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり尊重の念を根底としつつ、その人その人にあったコミュニケーションを心掛け、より笑顔を生めるよう努力している。	職員は、理念にも記載されている一人ひとりを大切に支援に取り組んでおり、利用者への言葉遣い等の対応についても意識するように取り組んでいる。また、法人で職員研修を行っており、職員が対応を振り返る機会もつくっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や決定があった時には、その発言や背景についても文字として残して職員で共有し、職員全体で実現できるように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の気分、体調に合わせ、アクティブに動く日や、ゆっくり休まれる日など希望にそって支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の調達や衣服の助言、時にはレクも兼ねて化粧など、ご家族とも話し合いながら身だしなみについて支援を行うようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備など手伝っていただく事もあるが、まだ少ない。徐々に職員・利用者と一緒に楽しみながら食事を用意できるような、環境を形にしたい思いがある。	おかず類は関連事業所の厨房から運んでくるが、ご飯と汁物は1階の共有スペースの厨房で調理している。食事の際には、共有スペースとホームのリビングで食事を行っている。また、おやつ作りや行事食の楽しみや、ミキサーや刻み食にも対応している。	食事作りの場面に利用者が参加する機会が限られているため、行事食の取り組みや、日常的にも利用者が参加できる機会が増えることを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせ食事形態の変更ならびに水分摂取の程度で声かけを多くするなど、バランスの良い食事、十分な水分摂取を習慣にできるよう、努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人ができる範囲はご自分で、できない所をスタッフカバーし支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄状況、周期を常に考え、上手に定期的に誘い排便コントロールできるよう努力している。ミーティングでもよく話し合っている。	職員は、一人ひとりの排泄状態の記録を残しながら、申し送りや会議等の機会を通じて、職員間での情報の共有に取り組んでいる。また、運営法人の過去からの経験を活かしながら、トイレの環境を考えており、利用者が自力で排泄できるように取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	トイレ誘導のタイミングの工夫、または便秘解消の為に服薬面、食事面様々な角度から働きかけるよう、常に話し合い、考慮して実行している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的にはある程度同じ時間に入っていたり、拒否があった時には時間をずらし、柔軟に対応している。	入浴は基本2日に1回となっており、時間は利用者の意向もあり、午後に行っている。ホームでは、利用者が浴槽での入浴ができるように、浴槽の仕切り板等の工夫を行っている。また、季節に合わせた柚子湯や菖蒲湯の楽しみも取り入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	定期的に自室で静養される機会を設け、休息時間の管理をしている。安眠できるよう昼間寝すぎないように、など気にかけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の変更及び、利用者の体調の変化などがあつた際には必ずその都度服薬の調節をドクターと共に検討している。薬の用法用量は常に見ることのできる場所に保管している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	共同生活における洗濯などの仕事に対して、または得意不得意で担当ができるよう工夫したレクの提供を心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせて外出を計画し、地域と協力しながら実行している。ご家族との外出もその都度連絡を取り合うなどし、柔軟に対応している。	ホームでは、利用者が日常的に外出できるように、近隣を散歩したり、買い物や外食の機会をつくるように取り組んでいる。併設事業所の利用者と一緒に出外する機会をつくったり、地域の老人会との合同で日帰り旅行に出かける機会もつくっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設がたてかえる事でトラブルを防いでいるが、ご家族との相談次第では施設側が把握をする形で所持して頂いている例外もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば対応している。 自室に携帯電話を所持されている利用者もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定期的な清掃の実施、及び季節感を感じる掲示物や室温の管理をはじめ、居室の加湿や寝具など、利用者の要望も取り入れながら実践している。	建物全体が木のぬくもりを大切にしたり造りとなっており、リビングや通路にも木が利用されている。また、壁の色調も自然の色合いに配慮しており、利用者が落ち着いて過ごすことができる環境づくりを行っている。また、季節に合わせた飾り付けも行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各居室とリビング共用スペースにつながりをもたせる事で、利用者は無理なく居場所の選択ができています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族とこまめに連絡、相談を行い、少しでもご利用者の要望をかなえられるような居場所づくりを心掛けている。	居室についても和風の造りであり、利用者が落ち着いて過ごすことのできる環境づくりに取り組んでいる。また、自宅からは、家具や鏡台等、利用者の馴染みの物を持って来ている方もおり、過ごしやすい居室づくりに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯や机拭き、ゴミ箱折り、おやつ作りなど、利用者に合わせてできることをなるべくやって頂くようにし、その理念を職員と共有している。		